

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

【 国語 】

平均正答率は全国平均を5%以上下回っています。学習指導要領の内容6項目中、4項目で全国平均を5%以上下回っています。評価の観点別では2項目とも、問題形式では3形式とも、全国平均を5%以上下回っています。この調査で測ることのできる国語の学力には課題があると言えます。

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

●漢字を使って書く設問3問は、いずれも5年生配当の字でしたが、いずれも正答率は全国平均を10%以上下回っています。

《情報の扱い方に関する事項》

●設問に対する正答率は全国平均より約2%下回っています。

《話すこと・聞くこと》

●オンライン交流の様子を表した文章からの設問3問中1問での正答率は全国平均を若干上回っていますが、他の2問については、5%以上下回っています。

《書くこと》

100字以内で、指定された条件を満たすように問題文に続く部分を書く問題でした。全国平均を4.4%上回る結果でした。

《読むこと》

複数の資料から、必要な情報を読み取る設問が3問ありました。2問は全国平均を5%程度下回りましたが、条件に合わせて物語の心に残ったところとその理由を書く問題は全国平均を5%以上、上回りました。

《児童質問紙 国語に関する質問》

○国語に関する質問で、国語の勉強は好き、あるいは大切であると答えた割合が、全国平均と比べて少し低いです。一方で国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う児童の割合は、どちらかといえば当てはまるも含めて全国平均より高い割合となっています。

●目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けた利しながら、伝える内容を考えたり、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書くという力が身に付いていない児童の割合が低めです。

【 算数 】

平均正答率は全国平均を5%以上下回っています。領域別では、4領域中、3領域で全国平均を5%以上下回っています。特に、変化と関係では10%以上の差がありました。評価の観点別では2項目とも、問題形式では3形式とも、全国平均を5%以上下回っています。この調査で測ることのできる算数の学力には課題があると言えます。

《数と計算》

●6問の設問中3問で、全国平均を10%下回っています。いずれの問題も計算自体は難しいもの

ではありませんが、文章を読み進めながら、問題を解いていくこの調査の問題形式に慣れていないことが原因だと思われます。

《図形》

- 4問の設問中1問で、全国平均を10%以上下回っています。10%以上下回った問題は、直径の長さ、演習の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題です。5年生で学習した内容ですが理解が充分ではなかったことが伺えます。

《変化と関係》

- 3問の設問中1問が、全国平均を10%以上下回っています。速度を求める問題です。これも5年生での学習内容ですが、速さの意味の理解が充分ではないようです。

《データの活用》

- 4問の設問中1問で、全国平均を10%下回っています。表やグラフから必要な情報を読み取る力に課題があるようです。

《児童質問紙 算数に関する質問》

- 算数の勉強が大切、社会に出たとき役に立つと思うと回答した児童が多い。
- 算数の問題が解けたときに、別の解き方を考えようとしていると回答した割合が、全国平均が31.1%に対して本校は19.2%だった。問題が解けたことに満足して、さらに発展的な取組に挑戦する姿勢が少ない。

◎児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

授業の中での ICT 機器の使用頻度が高い。

放課後や週末にスポーツや習い事をして過ごす児童が多い。

将来の夢や希望を持っている。

- 起床や就寝の時間が毎日同じくらいではない。
- 全体的にポジティブな姿勢を見せる率が低め。
- 学校の先生への信頼度が低め。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

学校での日々の学習を確実に行っていかなければいけないということを、再確認させられた調査結果でした。国語、算数の調査結果にも関連すると思われる質問紙の結果がいくつかありました。自分によいところがあると回答した児童の全国平均が 43.4%だったのに対し、26.9%でした。さらに先生はあなたによいところを認めてくれていると思うの質問に対し当てはまると回答が全国平均は 48.8%に対し、本校は 26.9%、さらにあてはまらない、どちらかと言えば当てはまらないが全校平均より多いです。さらに、困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できるかや、友達関係に満足していますかの質問に対し当てはまると回答の平均が全国より低い状況です。学習に臨む子どもたちの内面の部分で、自己肯定感や自己有用感が低かったり、友だちとの関係に心配事や不安があり、本来であれば間違えたり、失敗したりすることから学ぶことも多いことが、失敗したらどうしよう、間違ったらどうしようという不安や心配が先行してしまい、学習内容をしっかり理解できていないままにしている可能性があるのではないのでしょうか。そうした子どもたちの状況を教職員全員が理解し、子どもたちが安心して学べる学級づくりや主体的に学べる学習内容の充実を図りながら、学力向上へつなげていきたいと考えます。